

C-95 既製衣服に関する現代の女性の意識について

—— 年令階層による意識のちがい ——

学習院女子短大 ○湯本和子 菅原珠子 増田美子

目的 既製衣服の日本における歴史は浅いが、現代生活においてその占める位置は大きい。既製衣服の需要は年毎に増している。衣生活の実態を把握し、現代の女性の既製衣服に対する意識をまぐることを目的とする。

方法 本研究は一定学歴層における年令層の相違をみるために、女子校三校の卒業生を対象としてアンケート調査を行なったものである。調査人員は1,360名、回収率は52.1%で、調査は昭和52年9月から10月にかけて行なった。なお、この研究は調理済食品と既製衣服などに関する意識と実態についての調査研究の一部である。

結果 既製衣服の利用状況では、ブラウスとオーバーコートが非常に多く、年令層が若くなるにつれて利用率が高くなっていく。スカートについては年令層による差が余りみられず、既製衣服と共に自家製、注文服との併用が多い。利用する理由は、「直ぐに着られて便利である」というのが最も多い。購入する際の条件としては、サイズは別として、一般に材質、縫製技術などの実質的の面よりも、色、柄、形などの感覚的の面を重視する傾向にある。同一の既製衣服を着用しなくなる理由としては、中年令層、若年令層では「デザインが気に入らなくなる」「流行がくればなくなる」という理由が目立ち、高年令層では「サイズが合わなくなる」というのが多くみられている。